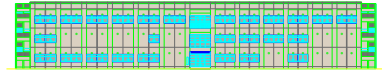


# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版, CASBEE埼玉2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	人間研究棟	階数	地上3F
建設地	埼玉県狭山市稲荷山2丁目3番地外	構造	RC造
用途地域	無指定	平均居住人員	26人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2021年6月 予定	評価の実施日	2018年3月14日
敷地面積	2,687,324 m <sup>2</sup>	作成者	伊藤聡
建築面積	1,650 m <sup>2</sup>	確認日	2018年3月16日
延床面積	4,491 m <sup>2</sup>	確認者	島田政之



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

### LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 室内環境: 執務スペース 12m <sup>2</sup> /人、昼光率 2.5%、開口部遮音性能 T=2 電気・空調・換気設備: 個別制御可能 設備更新性能向上: OA床、システム天井 自然エネルギー利用: 屋上緑化、ライトシェルフ、ハイサイドライト		その他 0
<b>Q1 室内環境</b> 遮音: 開口部遮音性能 T=2 ソーン別制御: マルチユニット型ヒートポンプ方式 昼光利用: 昼光率 2.5%、ライトシェルフ、ハイサイドライト	<b>Q2 サービス性能</b> 執務スペース 12m <sup>2</sup> /人、耐震性 建築基準法 x 1.25 設備配管更新必要間隔: 主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用 機械・配管支持方法: 耐震クラスA	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> まちなみ景観配慮: まちなみ調和、植栽景観形成、周辺景観形成
<b>LR1 エネルギー</b> 建物外皮熱負荷: [BPI] [BPI <sub>m</sub> ] = 0.7 自然エネルギー利用: ライトシェルフ、ハイサイドライト	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 水資源保護: 節水型衛生機器 リサイクル材: 岩綿吸音板、パーティクルボード、ピニル系床材 断熱材発泡剤: GWP 50 有害物質未含有建材: 接着剤、シーリング	<b>LR3 敷地外環境</b> 地球温暖化配慮: ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量88% 大気汚染防止: 燃焼機器なし、ヒートポンプ給湯設備、ヒートポンプ空調設備 雨水流出抑制: 雨水浸透枡 交通負荷抑制: 自転車置場、駐車場

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CAS  
人間研究棟

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、C  
評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.40</b>			<b>3.5</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.4</b>	0.15	-	-	<b>3.4</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
1.2 遮音				<b>4.2</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		開口部遮音性能 T=2		5.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.7</b>	0.35	-	-	<b>2.7</b>
2.1 室温制御				<b>3.3</b>	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性		マルチユニット型ヒートポンプ方式		4.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>				<b>4.1</b>	0.25	-	-	<b>4.1</b>
3.1 昼光利用				<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光率		昼光率 2.5%		5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		ライトシェルフ、ハイサイドライト		5.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
3.4 照明制御		照明制御:1作業単位		<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気環境</b>				<b>4.1</b>	0.25	-	-	<b>4.1</b>
4.1 発生源対策				<b>5.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		ホルムアルデヒド以外のVOCも放散量が少ない建材を全面的に採用		5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気				<b>3.3</b>	0.30	-	-	
1 換気量		換気量 建築基準法x1.2		4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.2</b>	0.40	-	-	<b>3.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		執務スペース 12㎡/人		5.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				3.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-	
3 内装計画				3.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.4</b>	0.30	-	-	<b>3.4</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.8</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		重要度係数 建築基準法x1.25		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用		4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性				<b>3.4</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3 電気設備				3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		機械・配管支持方法は耐震クラスA		4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水の危険性がない		4.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.7</b>	0.30	-	-	<b>3.7</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高 3.9m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	システム天井	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	OA床、システム天井	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	OA床、システム天井	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	予備配管・配線スペース	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		[BPI] [BPI <sub>m</sub> ] = 0.7	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		ライトシェルフ、ハイサイドライト	<b>4.0</b>	0.10	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>2.9</b>	0.50	-	-	<b>2.9</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水型衛生機器	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.4</b>	0.60	-	-	<b>3.4</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.11	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		リサイクル材: 岩綿吸音板、パーティクルボード、ビニル系床材	5.0	0.22	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.9</b>	0.20	-	-	<b>3.9</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		有害物質未含有建材: 接着剤、シーリング	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	断熱材発泡剤: GWP < 50	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出量88%	<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>		燃焼機器なし、ヒートポンプ給湯設備、ヒートポンプ空調設備	<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨水浸透枳による雨水流出抑制	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置場、駐車場	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.3</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	日影規制に対して1ランク上	4.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	人間研究棟	BEE	1.5	BEEランク
------	-------	-----	-----	--------

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO <sub>2</sub> の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.4	+	3.0	=	6.4	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO<sub>2</sub>の削減</b>		スコア平均	3.4
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4
< 配慮した内容を記述 >			
LR3.1.地球温暖化への配慮 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量88%			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	3.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
< 配慮した内容を記述 >			
Q3.1.生物環境の保全と創出	緑の量・緑の質の確保、緑地の維持管理		
Q3.3.2.敷地内温熱環境の向上	空地率 80%、緑化率 = 33.8%、屋上緑化率 = 37.7%		
LR3.2.2.温熱環境悪化の改善	風下通風配慮、隣棟間隔指標Rw 0.5、ヒートポンプ空調・給湯設備		

: 入力欄